



①子ども太鼓。練習の成果を披露(久来石区) ②お面をつけたベテランと浴衣の少女たち(駅前) ③仮装を楽しむ二小の子どもたち(成田区) ④雨にも負けず、大勢の方が踊っていた(鏡田区) ⑤迫力ある、伝統の太鼓(笠石区) ⑥牧場のあーさーも参加(駅前) ⑦櫓の上から(駅前)

「ピーヒャララ、ドンドンチャカチャ、ドンチャカチャ——」。太鼓と笛の音が響きわたると、目が暮れるにつれ、子どもからお年寄りまでがどこからともなく集まってきます。人だかりは自然と輪になり、櫓を囲んでぐるぐると回りながら踊ります。昔から続く夏の風物詩「盆踊り」。町内でも昔から各地域で伝統行事として行われてきました。

町の行事としても開催され、昭和62年には、駅前の通りで「町民盆踊り大会」が盛大に開催されました。平成8年には「牧場の朝ふるさと踊り」が開催され、駅前と笠石から太鼓の叩き手が集まり、踊り手や観衆約1,000人が参加しました。

鏡石町の盆踊りは、伝統行事として、地域ごとに様々な形で継承されてきています。取材を通して、子どもたちがひたむきに太鼓を叩く姿やお年寄りが子どもに踊りを教える姿、思い思いの仮装を楽しむ姿などを見ることができました。盆踊りは、地域に元気を生み出す催しであることはもちろん、つながりの希薄化が叫ばれる現代社会の中で、地域住民の貴重な交流の場として、とても重要な役割を果たしています。

【特集】地域の盆踊り

8月14日(火)、15日(水)の2日間、各地域で毎年恒例の盆踊りが行われました。今月号では、鏡石町の盆踊りについてご紹介します。

消防団を中心とした地域の若者が運営



駅前の盆踊りは、町消防団第3分団の団員を中心に構成されている「駅前盆踊り保存会」によって運営されています。毎年、盆踊りの約1か月前から準備・太鼓の練習を始め、本番に備えています。

会場なく中止となるも要望を受け再開



成田区では、会場となる成田保健センターグラウンドに仮設住宅が建設されたことから、震災後は盆踊りが中止となっていました。要望を受け3年前から再開され、多くの住民が参加しています。

子どもも参加し世代間の交流に



久来石区では、地域の子どもたちによる「子ども太鼓」を毎年行っており、14日と15日の両日、地域の皆さんに披露されています。練習を通して、世代間の交流にもつながっているとのこと。

回想



▶町民総参加で盆踊り(駅前) 平成9年(広報紙より)



▶盆踊り櫓(笠石) 年代不明(町史より)



▶町民盆踊り大会(駅前) 昭和62年(広報紙より)



▶盆踊り(笠石) 年代不明(町史より)

「何といっても盆踊りは青年達にとっては一年中一番の楽しみな行事であった」 (鏡石町史民俗編より)